



地方と都市の共生から 日本の再生が始まる

幸せに暮らすということが、物質的な豊かさだけではないと気づき、生きるということへの価値観が大きく変わりつつある現代、都市と地方の役割を考えた人口移動が注目されている。

豊かでゆとりのある 田舎暮らしを探す

仁坂知事(以下仁坂) ●和歌山県は随分前から田舎暮らしの移住・交流事業を全国に先駆けておこなってきました。そして平成19年、島田先生が会長を務める移住・交流推進機構(通称JOI以下ジョイン)が設立されました。

島田晴雄(以下島田) ●和歌山県は移住交流において既に数歩先を進んでいたわけですが、だから設立時、知事には発起人の一人として理事になっていただき、お力を拝借いたしました。ジョインでは都市と地方が共生して、安心して暮らせる、豊かでゆとりのある社会の実現を目指しています。今、日本の人口は減少傾向です。そしてその傾向が顕著なのは地方なんです。そうすると地方では生活できないから人口はますます都市に集中する。しかし都市と言うのは地方がないと成立しないんです。食べ物の供給も環境を守ってくれているのも地方なんです。だから地方が疲弊したら都市は成り立たない。

仁坂 ●このままでは地方も都市も元気がなくなってしまう。ではどうしたらいいんでしょうか？

島田 ●それは都市から地方への人口移動です。東京から数%の人が地方に移住す

るだけで地方の税収は増え、経済は活性化します。しかしそれも簡単なことではない。ところが高齢化と言う流れを利用すれば地方は甦るんです。都市には情報があり仕事があるから生活しています。が、定年退職後は家賃も高く環境もあまり良くない所に無理して住む必要がない。そしてもっと楽に健康に暮らせないと。そして、地方の素晴らしさに気付かと思いつく、地方の要素が揃っています。まずは空気が綺麗な。そして水が綺麗な。さらにはストレスのない静けさ。

良く来てくれました 一緒に楽しみたい

仁坂 ●しかし最低限の生活インフラは必要で、更に都市からの人を快く受け入れる地方の心構えも重要です。

島田 ●全くその通りです。「良く来てくれましたね。何かお手伝いする事ないですか？」こういう触れ合いがあると、今までの物質の豊かさなんかよりいいんです。都市に住んでいた人たちの故郷も元々は地方だった訳ですから。じゃあどこに行けばいいの？となると情報がな

いんです。その情報を誰が発信するの？できないか？ということですね、総務省の助力をいただきながら地方自治体と

企業と個人が一緒になった組織「ジョイン」を作り情報を発信している訳です。
仁坂 ●緩やかですが徐々に活動も認知されはじめましたね。そして和歌山からは田舎暮らしのコンテンツを提供させていただきました。和歌山県も過疎に悩んでいる地域があります。だから和歌山県には都市からの移住者を受け入れるためのシステムがいくつかあります。そのひとつが各地域で行われている、移住の先駆者による後続者の指導です。そして全体のシステムを和歌山県がサポートして統括しています。色々苦労しながら定住したノウハウはこれから田舎暮らしをしようと考えている人にとっては貴重なものです。そしてそこで生まれ育った人たちも集まりみんなで助け合うような協議会的なものを作っています。

島田 ●それは人間的な温かみのある素晴らしいシステムですね。実際にこれまで和歌山に移住された方はどれくらいいらっしゃいますか？

仁坂 ●ありがとうございます。しかし移住者の数で言うと、そんなに多くないんです。例えばこの3年間でいうと189世帯361人です。しかしそれだけの移住ではなく生活の基盤を築きながら定住しようとしています。就職はしたけれど都市の暮らしは疲れることも多く、自分の人生をちよっと軌道修正した



移住・交流推進機構(JOI)が展開する、「ニッポン移住・交流ナビ」のHP。地域と都市の移住・交流に役立つ情報や、田舎暮らしの魅力を発信している。
DATA>
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル13階
財団法人地域活性化センター内
TEL.03-3510-6581
<http://www.jiju-join.jp/>



和歌山県が展開する「田舎暮らし応援県わかやま」のHP。県内での田舎暮らしに役立つ情報を掲載したパンフレットや、スムーズな移住を実現するための田舎暮らしマニュアルの作成、官民連携の「田舎暮らし応援わかやま推進会議」の取組みなどを通じて、田舎暮らしを応援しています。
お問い合わせは>
和歌山県過疎対策課
TEL.073-441-2939
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022200/inakigurashi/index.html>



島田晴雄(しまだはるお)

1943年生まれ。経済学者。移住・交流推進機構会長。慶應義塾大学教授、東京大学客員教授、内閣府特命顧問を経て現在は千葉商科大学学長に就任。総務省ふるさと納税研究会座長として、ふるさと納税制度を推進した。「日本の壊れる音がする 今なら、まだ間に合う!」、「雇用を創る 構造改革」をはじめ、著書多数。最新刊は「岐路3.11と日本の再生」。

知事対談

千葉商科大学学長 島田晴雄 × 和歌山県知事 仁坂吉伸

界でもトップクラスの技術です。
仁坂 ● マグロは特に完全養殖というのができたんです。そうすると外洋から稚魚を取ってこなくてよくなりました。

る。もちろん憧れの世界遺産、熊野古道もある。海があるからヨットもできればスキューバもできるし、釣りもできる。だからおもしろくつてしようがない。
仁坂 ● そうなんです。そして少し歳を取ると今度は温泉にグルメ。和歌山県というのは田舎暮らしに最も適した県なんです。先生には何度か和歌山に来ていただけてますが、先生からご覧になって移住先として和歌山の魅力と

が掲載されていますよ。
仁坂 ● 51度といわれています。
島田 ● それは凄いですね。普通、一度でも掲載されれば、世界的に認められたことになるんですが。また粘菌についての研究も有名で、昭和天皇にご進講申し上げたとか?
仁坂 ● そうなんです。御召艦の長門で神島にいられて、熊楠はフロックコートを着て、かしまってご進講したそうです。(笑)
島田 ● 和歌山県の人たちはそんな熊楠

世界に対抗できる技術力も凄い

の足跡や研究成果を非常に大事にしています。私は熊楠は世界遺産とならんで、人間遺産かなと思っています。
仁坂 ● また、熊楠が「エコロジー」という言葉を日本ではじめて説いてちょうど100年なので、環境省と共に10月の2日に東京で「南方熊楠のシンポジウム」をやるうと思ってるんです。

「獲る漁業」から「育てる漁業」へと変わりました。だから殖せる訳なんです。水産資源の枯渇や総量規制が問題とされている現在において近畿大学の業績です。
島田 ● 日本の経済は今、デフレという病気を患っています。今から四半世紀近く前、日本は空前の好景気に湧きました。バブル崩壊後、経済は停滞し続けています。その理由は次世代の社会的なビジネスモデルを提示できなかったからなんです。アメリカは日本の技術や経済に遅れを取り不況に悩みますが、次世代のモデルとして金融とITを掲げ歴史的な復活を果たします。最近の中国やドバイの経済発展は外国からの投資を積極的に受け入れたからです。しかし日本は何も変わらない。

発展しないし過当な値下げ競争で企業は疲弊する。悪循環ですね。だから日本はこれから経済的に門戸を開き、外国からの投資を積極的に受け入れなければなりません。
仁坂 ● 和歌山も私が子どもの頃から経済構造は変わっていません。しかしそれではだめで、移住交流をはじめ県外から多くの人を受け入れ、変わっていかねければなりません。
島田 ● そうですね。和歌山は日本の縮図という気がします。だから次世代のモデルを提示し和歌山から日本を甦らせてください。
仁坂 ● 本日はありがとうございました。がんばります。



熊楠が所有していた科学雑誌「ネイチャー」(南方熊楠顕彰館所蔵)



「南方熊楠と妻の松枝さん」昭和天皇への謁見前に撮影された写真。普段は着るものに無頓着だった熊楠もこの日はきちんと正装していた。(南方熊楠顕彰館所蔵)



ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで三つ星を獲得したばかりの熊野古道。写真は伏拝付近。



1300年以上の歴史を誇る白浜・崎の湯。目の前に黒潮が迫る和歌山ならではの雄大な温泉。



ラムサール条約に登録されている串本の海は、ダイバー憧れのスポット。世界最北のサンゴ群集地。



仁坂吉伸(にさかよしのぶ) 和歌山県知事

年齢に応じた生活それが和歌山の魅力

島田 ● この求められる生活のステージは年齢によって随分異なります。現在、団塊の世代は60歳代になっていますが、この人たちはもの凄くアクティブで静かな生活だけでは飽き足りない。しかし和歌山には多くのメニューがあります。深い森があるから山登りも楽しめ

る。もちろん憧れの世界遺産、熊野古道もある。海があるからヨットもできればスキューバもできるし、釣りもできる。だからおもしろくつてしようがない。
仁坂 ● そうなんです。そして少し歳を取ると今度は温泉にグルメ。和歌山県というのは田舎暮らしに最も適した県なんです。先生には何度か和歌山に来ていただけてますが、先生からご覧になって移住先として和歌山の魅力と

が掲載されていますよ。
仁坂 ● 51度といわれています。
島田 ● それは凄いですね。普通、一度でも掲載されれば、世界的に認められたことになるんですが。また粘菌についての研究も有名で、昭和天皇にご進講申し上げたとか?
仁坂 ● そうなんです。御召艦の長門で神島にいられて、熊楠はフロックコートを着て、かしまってご進講したそうです。(笑)
島田 ● 和歌山県の人たちはそんな熊楠